

S E T O U C H I
T R I E N N A L E
2 0 1 9

クリスティアン・
バスティアンス
「大切な貨物」

2019.11.1fri + 2sat 19:00-20:00 (開場 18:30)

【会場】 サンポートホール高松 第1小ホール

【料金】 前売り¥4,000、当日¥5,000、パスポート割引¥4,500、小中高¥2,000 ※未就学児入場不可

Christiaan Bastiaans “Valuable Cargo”



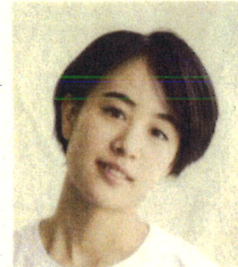
ハンセン病の療養所がある大島をテーマに、日欧のキャスト・スタッフが贈る「大切な貨物」。奇才クリスティアン・バスティアンスが「傷ついた共同体」の物語を、映像とパフォーマンスが一体となった幻想の世界に描き上げる。出演は、日本映画批評家大賞主演女優賞受賞をはじめ、成長著しい石橋静河、ゴダール作品で鮮烈な主演デビューを飾り、国際的に活躍してきたマルーシュカ・デートメルスら、日欧の第一線の俳優たち。そして多くの映画・舞台・テレビで強烈な個性を発する名優・柄本明が特別出演する。瀬戸内国際芸術祭2019の最後を飾る2日間だけの〈希望〉の舞台。



柄本明



マルーシュカ・デートメルス



石橋静河



ヘレーネ・ヴレイダッヒ

[演出] クリスティアン・バスティアンス

[出演] 柄本明(特別出演)、石橋静河、マルーシュカ・デートメルス、ヘレーネ・ヴレイダッヒ

[映像出演] リヴ・ウルマン、笈田ヨシ、大野慶人、レイナ・キャンベル、アンヘラ・モリーナ、アンヌ・ラッテ=ポレ、クラロン・マクファデン、ステファン・シュテルン、ノラ・セリーヌ・ラマカー



[アクセス] サンポートホール高松(香川県高松市サンポート2-1)

JR高松駅から徒歩3分、ことடன்高松築港駅から徒歩5分、高松港から徒歩2分
高松自動車道高松中央ICから車で約20分、高松空港からリムジンバスでJR高松駅行き約45分

[前売券] オンラインで購入 パソコン/携帯電話/スマートフォンからオンラインでお買い求め頂けます。

・イープラス(<https://eplus.jp>)にアクセス&「瀬戸内国際芸術祭」で検索! イープラス

・Peatix(<https://peatix.com>)にアクセス&「瀬戸内国際芸術祭」で検索! Peatix

[当日券] 当日券はイベント会場でのみ販売します。

作品鑑賞パスポートのご提示でチケットの料金が割引になりますので、お持ちの方は当日ご持参ください。

主催:文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、瀬戸内国際芸術祭実行委員会

共催:公益財団法人 福武財団 助成:モンドリアン財団、オランダ王国大使館

[お問合せ] 瀬戸内国際芸術祭総合案内所

TEL|087-813-2244 E-MAIL|info@setouchi-artfest.jp

<https://setouchi-artfest.jp>



2019年度日本博を契機とする
文化資源コンテンツ創成事業

公益財団法人 福武財団



Kingdom of the Netherlands

os10 映像インスタレーション

[日時] 秋会期 2019年9月28日[土]~11月4日[月・祝] 10:15 - 16:00(休島日*10/17、20、24)

[会場] 大島・庵治第二小学校体育館 ※休島日は変更になる可能性があります。事前に芸術祭公式webサイトをご確認ください。

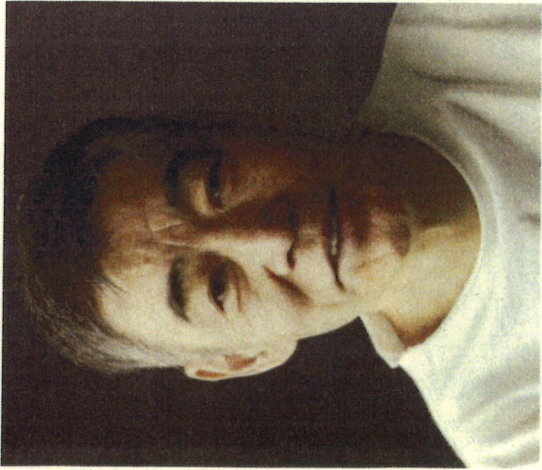
大島にある庵治第二小学校体育館にて映像インスタレーション作品を展示。大島に長い間隔離されてきた人々の話を元にしたフィクションと実際に大島で撮影されたドキュメンタリーが交錯する。世界的な映画監督イングマール・ベルイマンの作品に数多く出演し、人権活動家としても知られるリヴ・ウルマンを始めとする、日欧の俳優達が参画。今まで語られてこなかった大島の人々の物語が描かれる。



リヴ・ウルマン

【出演者紹介】

□が志取前同名



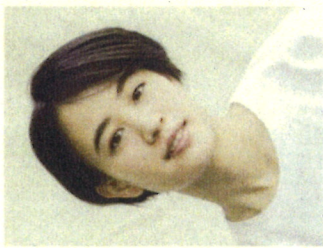
柄本明

1948年生まれ。東京出身。1976年劇団東京乾電池を結成。座長を務める。1998年「カンゾー先生」にて第22回日本アカデミー賞最優秀主演男優賞を受賞。以降映画賞をさまざま受賞。また、2010年「悪人」にて第32回日本アカデミー賞最優秀助演男優賞を受賞。映画のみならず、舞台やテレビドラマにも多数出演し、2011年には紫綬褒章を受章した。2015年には第41回放送文化基金賞 番組部門『演技賞』を受賞。近年の主な映画出演は「シン・ゴジラ」(2016年)、「万引き家族」(2018年)、「ある船頭の話」、「居眠り磐音」(2019年)など。

受賞歴

- 1998年「カンゾー先生」
- 第23回報知映画賞／最優秀主演男優賞／第11回日刊スポーツ映画大賞主演男優賞／キネマ旬報1998年度ベスト・テン主演男優賞／第22回日本アカデミー最優秀主演男優賞
- 2004年「花」「ドッペルゲンガー」「座頭市」
- 第58回毎日映画コンクール男優助演賞
- 2005年「油断大敵」「幼がヲ処的」「ワトリはハダシだ」
- 第26回ヨコハマ映画祭助演男優賞。
- 2008年「やじきた道中てれすこ」
- 日本アカデミー賞優秀男優賞受賞
- 2010年「悪人」
- 第32回日本アカデミー賞最優秀助演男優賞／2010年度映画観賞団体全国連絡会議賞・男優賞受賞／第61回芸術選奨文部科学大臣賞映画部門受賞
- 2010年「悪人」「桜田門外の変」「雷桜」
- 第35回報知映画賞助演男優賞
- 2010年「悪人」「桜田門外の変」「雷桜」「ヘブンズストーリー」他にて第84回キネマ旬報ベスト・テン助演男優賞受賞
- 2011年紫綬褒章を受章
- 2015年第41回放送文化基金賞番組部門『演技賞』（松本清張二夜連続ドラマスペシャル「坂道の家」）

【出演者紹介】



石橋 静河 (スカーレット役)

4歳よりバレエを始め、15歳でボストン、カルガリーのバレエスクールに留学後、2013年に帰国しコンテンポラリーダンサーとして活動。ROGO「銀河鉄道の夜2015」でデビュー。野田秀樹が演出したNODA・MAP「逆鱗」出演。近年映画へと活躍の幅を広げている。『夜空はいつでも最高密度の青色だ』(2017年)で主演を演じ、ブルーリボン賞新人賞受賞。NHK朝ドラ「半分、青い」でヒロインの幼馴染(佐藤健)の妻役を演じ注目を集める。『生きてるだけで、愛。』(2019年公開)、『二階堂家物語』(2019年公開)、『いちごの唄』(2019年公開予定)などの出演を控えている。第28回日本映画批評家大賞主演女優賞(『きみの鳥はうたえる』)受賞。



笈田ヨシ (盲人役)

1933年神戸に生まれる。文学座、劇団四季を経て1968年より英国の演出家ピーター・ブルック率いる国際演劇研究センターに所属。『オルガスト』(1971年)『マハバラタ』(1987年)、『テンペスト』(1991年)、『ザ・マン・フー』(1997年)に出演。拠点をヨーロッパに移す。1975年ヨシ・アンド・カンパニーを設立以降、世界各国で活動を展開。「タクシー2」(2000)、「WASABI」(2001)、「沈黙」(2016年)等、多数の映画作品に出演する一方、演劇、オペラ作品の演出も数多く手がける。著書『俳優漂流』(1989・五柳書院)は各国語に翻訳され、数々の国で出版されている。フランス芸術文化勲章オフィシエ受勲。2013年、フランス文化勲章受章。



大野慶人 (案内人役)

1938年東京に生まれる。1959年土方巽の「禁色」で少年役を演ずる。60年代の暗黒舞踏派公演に参画。69年初りサイタル後に舞台活動を中断、85年「死海」で大野一雄と共演、カムバックした。86年以降大野一雄の全作品を演出。ヴァッパール舞踊団ダンサーとの共演「たしかな朝」(2010)、音楽家アントニーとの「Antony & Ohnos」(2010)などコラボレーション作品の他、ソロ作品「花と鳥」(2013)はヨーロッパ(2014)、ブラジル(2015)、中国(2016、2017)を巡演。近作に、アノーニとの共演「たしかな心と眼」(2017)。



マルーシュカ・デートメルス (ラ・ヴィーヴル役)

オランダ出身。十代でフランスに移り、ジャン・リュック・コダールに一目置かれる。1983年にコダールが監督した『カルメンという名の女』で華やかにデビューを飾る。マルコ・ベロッキオ監督作品の『肉体の悪魔』(1986)で最も知られる他『ハンナの戦争』(1988)に出演。ロマンス・コメディ『ふたりDeuxドゥー』(1998)ではジェラルド・ドバルデューの相手役を演じる。ミュージカル『マンボ・キングス/わが心のマリア』(1992)ではアントニオ・バンデラス、アーマンド・アサントと共演。国際的な舞台で数々の役を演じる。「大切な貨物」の11月のライブパフォーマンスにも出演。



レイナ・キャンベル (ドック役)

ニューヨーク・タイムズからスカラシップを受賞し、ニューヨークのアメリカン・アカデミー・オブ・ドラマティック・アーツで演劇を学ぶ。ロンドンを拠点に活動し、デイズニーがプロデュースした『マレフィセント2』(未公開)、バンドラ・フィルム『ライラ・フォーリー』(2013年)、アマゾン・プライムの『The Feed』(未公開)、ネットフリックスの『Safe-埋もれた秘密』(2018年)、スカイ・ワンの『Sick of It』(2018年)、BBCの『Casualty』(2017年)に出演。『Lapse of Honour』(2015年)で脚本、監督、プロデューサーとしてデビュー。本作で数々の映画祭に参加し賞を受賞。



アンヘラ・モリーナ (ラ・アントニア役)

スペイン出身。ルイス・ブニエールが監督した映画『欲望の曖昧な対象』(1977年)で国際的な女優として知られる。ルイス・ブニエール、リドリー・スコット、ジュゼッペ・トルナトーレ、ペドロ・アルモドバル、セルジオ・カステリッドなど監督作品に出演。1985年にダヴィット・デイ・ドナテッロ賞(イタリア映画における最高の名誉とされる賞)を初の外国人女優として受賞。1987年にサン・セバスティアン国際映画祭では『Half of Heaven』で最優秀女優賞を受賞。また、スペインのアカデミー賞と呼ばれるゴヤ賞に繰り返しノミネートされる。1999年に開催された第49回ベルリン国際映画祭にて審査員長として参加。



ノラ・セリーヌ・ラマカー (ニユートロフィア)

アムステルダム出身。1994年まれ。役者、パフォーマーとして活躍する一方、舞台、映画の演出家、脚本家として活動する。2018年 Institute for Performing Arts Maastrichtを卒業後、Het Zuidelijk Toneel やオントロエレン・グッドなどオランダやベルギーの劇団で働く。卒業後、アムステルダムで開かれた演劇祭、De Paradeで行ったソロ・パフォーマンスは深い印象を残す。

彼女の短編ファッション・フィルム『Mino』は数々の国際ファッション・フィルム・フェスティバルに選ばれる。2019年の新作『BOUNCEHAUS』を制作中。本作では共感の重要性と欠点を調査する。個人と集団の感情の間に発生する緊張感を探求し、人々からさらけ出された共感とそのメカニズムの分析から成り立つ様々な作品を制作する。



ヘレーネ・グレイダッヒ (キキウイット)

フランス出身。1996年生まれ。オランダで育ち、現在も拠点とする。6歳の時に歌を習い始める。現在はオランダのアカデミー・オブ・パフォーマンス・マーストリヒトに在学し、演者またクリエーターとして学ぶ。パフォーマンスの一部に、インスタレーション、印刷された言葉、音楽など他分野のアートを取り入れ、実験的な制作を行う。声、音、音楽は、不完全なコミュニケーション方法としての言語と、それを受けとめる身体への大いなる愛をもって、彼女の作品に繰り返し現れる。「大切な貨物」の11月のライブパフォーマンスに出演。